



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2017
3月27日号157
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

節 目



副会長 遊 佐 烈

先日、我が家の庭に埋められていた除去土壌の搬出が行われた。密封型容器が22個だそうだ。思い返せば2014年の1月に汚染除去の一環として行われた。平日で勤務のためにその作業を見ることは無かったが、帰宅した時に容器が埋めてあった所が、真新しい山砂が敷き詰められており作業が無事終了した事を知った。後日、施行業者から搬出確認書に署名捺印を求められ提出し、全て終わった。確認書には地下埋設場所における地上高1mにおける空間線量率の搬出開始前及び搬出終了後の値が記載されていた。因みに我が家では $0.19 \mu\text{Sv/h}$ から $0.13 \mu\text{Sv/h}$ に低減されたとの証明だった。これで我が家に対する原発事故の除染に関する作業は終了したわけである。

TVや新聞の報道により福島第一原発2号機の原子炉が入っている格納容器内の様子があったが、空間放射線量は推定ではあるが 530Sv/h であり、更に大きな数値の放射線量も推定されるとの事である。これまでは放射性物質拡散の防止と施設内の除染、汚染地下水の問題が紙面等を賑わせていたが、格納容器内の様子が公開されたのは、廃炉にむけた作業が前進した事の現れでもある。

但しこの 530Sv/h の数値には驚いた。通常ヒトのLD50/30（全身に被ばくした場合30日以内に50%が亡くなる線量）は $2.5 \sim 4.5 * \text{Gy}$ （*は治療を行わない場合）とされている。吸収線量Gyと実効線量Svの間では、放射線荷重係数及び組織荷重係数をかけて算出できるが、大雑把に考えると吸収線量の約80%値が実効線量と考えてもよい。ヒトに照射後60日以内に100%が死亡する線量LD100/60で7Gyと言われている。そう考えると単純計算で 630Gy を超える線量では人間が簡単に近づけるような数値でない事がわかる。現在廃炉に向けた作業は非常に困難な状況ではあるが、高線量に対処できる機械を作り出すことで、溶け落ちた燃料を取り出す作業が可能になるとも言える。小さな歩みかも知れないが確かに前に進んでいると言って良いのだろう。

人生においてもそれぞれ転機となる時期がある。その時本人が気付いていても、気付かなくても「あの時が自分の変わり目だったな」と思うものである。人生の節目となると入学、就職、結婚、子供の誕生、定年などもそうであろう。前に進むことは大事ではあるが、時には後ろを振り返って自分の歩いてきた道を再度見つめなおす事も必要と考える。3月11日で原発事故から6年が経過し7年目となるが、国民の大多数にとっては過ぎ去った遠い過去の事とされているかも知れない。しかし福島では今後30年、40年かかる廃炉作業が済んでもそれは一つの区切りでしかない。決して以前と同じ状態にもどる訳ではない。

今年（公社）福島県診療放射線技師会の役員改選があります。新旧交代の時でもあります。私も今まで何度かこの巻頭言を書かせて頂きましたが、こちらで筆を置かせて頂き、新しい人と交代することにします。

これからも新しい力で自分達の（公社）福島県診療放射線技師会を大きく育てて行きましょう。

【平成28年度第3回理事会議事録(抜粋)】

日時：平成28年12月2日(金) 14:30～16:30

場所：太田西ノ内病院5号館2階小会議室

出席理事：会長新里昌一、副会長平井和子、
常任理事堀江常満、同菅野和之、同阿部郁明
理事佐藤孝則、同佐藤佳晴、同池田正光、
同佐藤政春、同白石嘉博、同鍵谷 勝
同鈴木雅博、同森谷辰裕、同池田昭文

出席監事：片倉俊彦監事

指名出席：事務局長齋藤康雄、事務局員笹川克博、
同本田清子

欠席：副会長遊佐 烈、理事秋山淳一、田中邦夫

欠席監事：高橋宏和監事

平井副会長の司会で開会し、議長は定款により新里会長が就任し、議事記録に県南地区白石理事、鍵谷理事を指名して議事に入る。

1. 議事

1) 平成28年度事業計画

各委員会等の進捗状況について

▶ 学術委員会

学術大会の報告(佐藤委員長より)

(ア) 11月6日(日)に星総合病院 メグレスホールにて開催しました。

参加者：会員163名、非会員51名、一般6名
例年より多い参加者でした。

演題総数：39題(口述：33題、ポスター：6題)
で、今回初めてポスター発表の形式をとりましたが、成功裏に終了したと思います。

～中略～

(イ) 投書の件

全国或いは東北地区での学術大会で発表した演題を県学術大会で発表した会員が居る。抄録の掲載をしないで欲しい。との、匿名の投書が学術委員長宛にあった。

新里会長：以前より若手育成の目的もあったため、他学術大会と重複することは織り込み済みであり、よって、投書にあるような対応はしない。

～中略～

▶ 編集・広報委員会(平井委員長より)

i. 放技ニュースの件

11月号を発行した。計画通りの発刊ができています。

ii. 会報の件

会報発刊に向けた作業を開始しました。表紙のみカラーで発刊する。学術大会の抄録を含め作業を始めたところ。先ほど提案のあった、HPに掲載する学術大会抄録集のカラー化に向けて、関係

者と検討していきます。

▶ ネットワーク委員会(菅野委員長より)

学術賞・学術奨励賞受賞者の歴代リストを作成し、HPに掲載したい。

～中略～

▶ 生涯教育(堀江委員長より)

業務拡大統一講習会の件

(ア) 会津、県南地区を終え、県北地区16名受講、いわき地区46名受講しました。計4回の開催で、受講者数は100名を超えました。

(イ) 山形県から講師派遣要請を受け、11月12日、13日に講師1名を派遣しました。

(ウ) 29年度の開催計画は、会長と相談して計2回の開催としたいと考えています。平成29年8月に県北地区、同9月に県南地区、太田西ノ内病院で調整したと考えています。

新里会長：JARTから会員所属施設長宛に、業務拡大統一講習会への参加を促すための依頼文を送付したい旨の連絡がありました。

▶ 災害対策委員会(佐藤政春理事)

平成28年度福島県原子力防災訓練参加報告

(ア) 平成28年10月22日(土)、広野町、楡葉町2町の住民の避難訓練を避難先に小野町、会津美里町として実施しました。小野町町民育館には、本会から8名参加しました。会津地区は、4名参加でした。

(イ) 今回より、体表面汚染スクリーニングの名称を避難時退出検査と呼称変更しました。

～中略～

▶ 財務委員会(阿部郁明委員長)

i. 予算の執行状況

(ア) 収入：¥5,688,643円

(イ) 支出：¥4,672,409円

(ウ) 残金：¥2,074,902円

(エ) 事務所拡充積立金、学術奨励金、減価償却積立金など計220万円の支出が見込まれる。更に会報の支出もあるため、現段階での見通しは、赤字となる。新年度当初の活動資金として、繰越金も確保したいので、事務所拡充積立金が予算通り確保できるか危ぶまれるが、努力します。

ii. 会費納入状況(平成28年11月29日現在)

(ア) 会津 82% 県南 73% 県北 82% 浜 89%

(イ) 未納者

26年度：3名、27年度：16名、28年度：117名、計136名分が未納扱い。

(ウ) 各地区にて督促等対応をお願いします。

新里会長：事業執行にも影響が出かねませんので、未納者への対応は、各地区協議会委員長さんを中心をお願いします。

～中略～

2) 協議事項

選挙管理委員会について (新里会長)

平成28 - 29年度 選挙管理委員

県北 亀山欣之会員 (保健衛生協会) 委員長

県南 照井英樹 会員 (太田熱海病院)

会津 飯塚英広 会員 (竹田総合病院)

浜通り 佐藤龍一 会員 (磐城共立病院)

以上4名の皆さんにお願いします。1月に立ち上げます。

承認

表彰委員会から (斎藤事務局長)

▶ JARTの永年勤続表彰について

30年表彰対象者は、県内で14名の皆さんです。

50年表彰対象者は、荒井忠一氏 (県南地区) 一人です。

新里会長：各地区委員長さんは、対象者の条件を確認の上報告ください。

▶ 厚生大臣表彰について

遊佐 烈副会長を推薦したいと考えます。

承認

▶ 県知事表彰について

今野英磨呂氏 (県北地区) を推薦したいと考えます。

承認

「第7回会津心臓病・心血管疾患研究会2016」、
「メディカルクリエーションふくしま」及び「第5回福島医療の質・安全フォーラム」共催・後援依頼の件 (新里会長)

承認

新里会長：JART主催「業務拡大に伴う統一講習会」開催に関し、会員所属施設長あてに講習会派遣依頼書を送付したいとの連絡がありました。

堀江 (生涯教育委員長)：次年度の講習会は、2回を予定しています。県技師会としてどのようなスタンスで臨むのでしょうか。

新里会長：受講費や講習会開催日時など個人ごとに負担感が異なるので、強制はしたくないと考えています。JART、会員の動向などもうしばらく様子を見たいと思います。

承認

定款改正の件 (新里会長)

副会長職を現行の2名から3名に増員し、定款改正したいと考えています。

東北6県の中で会員数が最も多いにも拘らず、副会長職が2名は、福島のみである。また、副会長職3名の中から次の会長を任じられるようになって欲しいと考えています。

片倉監事：定款の改正は、その手続きも含めて重大な事であり、その根拠となる今の説明では協議が発

展しない。次の理事会に再提案されてはいかがですか。

佐藤政春理事：今年度の県防災訓練と東北放射線医療技術学術大会の日程が重なった時など、副会長職が3名いれば対応できる場合も増えるので良いことではないでしょうか。

新里会長：継続協議とします。

研究助成金について (堀江理事)

会員より助成金申請がありました。

使用目的は、演題発表のための交通費など旅費として使いたいとの事。

なお、当該研究はすでに終了している。

佐藤孝則理事：この研究助成金の使途として想定していたのは、

(ア) 実験材料購入、実験装置製作。

(イ) 他施設間での共同研究を行う上での通信費。

(ウ) 共同研究を実施する上での交通費

(エ) その他研究に要すると認められるもの。

です。

今回の申請では、発表のための旅費であること。過去の実験に遡ってその申請を受け付ける事は、混乱を招く恐れがある事を理由に申請を不可としたい。

新里会長：研究助成金に関する内規に誤解を招く元があったのかもしれませんが、内規の見直しを含めて学術委員会にて検討をしてください。

佐藤孝則理事：学術奨励金として、JART主催の全国学術大会へ演題を発表される方に1万円を支給しています。一方、東北地区の学術大会にも演題を出される方がいます。同一人物が両方に演題を発表する際は、1万5千円を支給するのですか？

新里会長：このような場合は、支給金額の大きい方のみの支給とします。また、同一大会に異なる演題を複数題発表する場合でも、或いは、演者と講師などにて参加される場合でもどちらか一方の支給とします。今までもそのようにしていました。

内規にあいまいな部分があれば見直しをして下さい。

承認

3) 報告事項

中間監査報告 (片倉監事)

11月28日に高橋会計事務所にて、高橋宏和監事を含め監査を行いました。法人会計については、指摘事項はありませんでした。

事業においては、各委員会とも継続的に業務を遂行している。今後ともこの取り組みを続けてください。

各分科会の会計報告については、本会から助成金として支出することで、事業報告・会計報告を提出してもらおうよう検討して頂きたい。

来年度の事業費としての繰越金を確保し辛い状況なので、支出抑制の対応を検討ください。そのためには、新入会員の確保と会費未納者対策をお願いします。

東北地域会長会議報告（新里会長）
負担金として会員一人当たり300円を拠出します。この金額は例年通りです。
臨床実習の在り方
ふくしま医療機器開発支援センターの後援
新里会長：医療機器開発県として取り組む方針を示している福島県としての肝いりなので後援していきたい。

その他
29年度総会について（佐藤孝則理事）
開催日は、平成29年5月27日(土)、会場は医大病院内を考えています。一般講演会の講師は、内諾を頂いています。
総会にて表彰される、「永年勤続20年表彰者」の対象者について、各地区にてリストアップをお願いします。

～会長 「オンレコ」～

1 「定款改正の試み」

来年度の総会で、定款改正を提案させていただきます。現在は、会長1名と副会長2名の役職がありますが、副会長3名に変更を提案する予定です。県内には、4つの地区がありますが、会長・副会長の計4名を各地区から選出させたいと考えます。

今までは、県北や県南へ偏り過ぎていました。今後はオール福島として代表を選出したいと考えます。近隣の宮城や山形は、福島より会員数が少ないですが、副会長3名体制です。県内の活性化のためにも、皆様のご理解をお願いいたします。

2 「選挙管理委員会の開催」

1月13日(金)に委員会を開催して、来総会までの準備や段取りについて話し合いました。来年度の定時総会は、役員改選の年にあたります。今回から選挙管理委員会の任期は、総会を挟むように変更しました。

3 「平成28年度第2回東北会長会議」

2月4日(土)に岩手医大で開催されました。212ページもある日放技の資料や各県活動報告、東北放射線医療技術学術大会等の件で議論しました。後半は、教育担当と合同での会議となり、統一講習会等の話し合いを行いました。

特記事項は、日放技の平成29年度事業計画案に、「技師の6年制教育導入に向けて事業を展開」とあります。

4 「新医療系学部の設置準備室の久保教授と面談」

久保教授が、福島県立医科大学新医療系学部の設置準備室勤務となりました。2月7日(火)に放射線学科設置に関する件で、再度ご挨拶に来院されました。福島駅前に新学部建設後は、ぜひ会議や実験で使用してくださいと言って頂きました。

今後は、進捗情報を久保先生から頂き、このニュース等に掲載して行きたいと考えます。当会として、これからも友好的に協力をして行く考えです。

【福島県立医科大学新医療系学部だより】

福島県立医科大学

新医療系学部設置準備室

久保 均教授

福島県の診療放射線技師の皆さん、こんにちは。福島県立医科大学新医療系学部設置準備室の久保と申します。先生方もご存じのとおり、我々は平成33年



開学を目指して設置準備を進めております。これから、本紙面の一部をお借りし、新医療系学部設置の準備状況などをお伝えして参ります。福島県に初めてできる診療放射線技師養成機関となりますので、先生方の末永いご指導とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

まずは第1回目ということで、私の自己紹介とさせていただきます。三重県で生まれ、鈴鹿サーキットで有名な鈴鹿市で育ちました。名古屋大学医療技術短期大学部を卒業後、三重大学医学部附属病院、三重県立総合塩浜病院、三重県立総合医療センターで臨床経験を積んだ後、平成12年に徳島大学へ教員として赴任しました。診療放射線技師養成教育・研究および臨床を行いながら、途中で米国ミネソタ大学MR研究センターや理化学研究所分子イメージング科学研究センターへ留学もしました。また、徳島大学大学院工学研究科博士後期課程で学位を得ております。平成25年に新たに立ち上がりました福島県立医科大学先端臨床研究センターへ異動し、平成28年11月に新医療系学部設置準備室に教授として着任いたしました。

専門は画像診断技術ですが、特にMR、核医学を中心に分子イメージング技術開発を行っています。対象は臨床から小動物を扱う前臨床まで幅広く、画像診断技術と組み合わせる分子プローブなどの開発も行っていきます。最も興味を持っているのは「生体機能の定量的可視化」であり、イメージングの非侵襲という良さを活かした疾患の早期診断から治療評価、あるいはそもそもの生体機能の解明に貢献していきたいと考えております。

次回からは、新医療系学部設置準備に関する情報をお伝えして参ります。どうぞ、お楽しみに。

雑感

X線管球か X線管か

精度管理委員会委員長

佐藤政春

会報、雑誌等でX線管がX線



管球と書かれているのを時に目にしますが今後、抄録はどちらの表記が良いのかどちらでも良いのか学術委員会、編集委員会にお願いするとして以下の資料を参考にして下さい。医療法、医発188号、JIS Z4000～放射線関連JIS、専門書はX線管と表記、日本放射線技術学会は過去に論文用語としてX線管が定義されています。

地区だより

県北地区

「地区協議会勉強会・新年交流会」開催

平成29年2月11日に福島テルサにて県北地区勉強会および新年交流会が開催されました。勉強会ではFPDパネルについてコニカミノルタ株式会社様、富士フィルムメディカル株式会社様、キャノンライフケアソリューション株式会社様よりプレゼンが行われ、分かりやすく自社の装置の特徴を説明していました。今後の導入の選定等に役立つ内容だったと思います。交流会では皆様一年の始まりを祝い交流を深めていました。

(阿部)



会津地区

平成29年2月9日(木)に以下の勉強会が開催されました。

場所：竹田病院 総合医療センター2階
画像センター カンファランス室

演題：

1. 「メドラッドとの法人統合及び製品紹介」
バイエル薬品(株) ラジオロジー事業部 安達恭幸氏
2. 「血管装置更新後の初期使用経験」
竹田総合病院 放射線科 金田智樹氏
3. 血管撮影室の見学



メドラッドは法人統合してバイエル薬品になったようで、造影剤インジェクターの新製品などの説明をしていただき興味深い内容でした。竹田病院の血管装置の使用経験も大変勉強になりました。最後に竹田病院のアンギオ室やCT室などの施設を見学させていただきました。竹田病院のような大きな施設の最先端の機器を見ることができて、すごく興奮するとともに学ぶことも多く大変有意義な勉強会となりました。(浅川)

県南地区

平成29年2月24日(金)に地区協議会委員会を開催いたしました。28年度の事業報告、収支報告を受け、28年度を振り返りました。また、29年度は役員改選の年にあたるため、この件につきましても意見交換を行いました。

29年度の地区協議会事業を決める「県南地区全体会」を下記の通り開催する事で決定しましたのでお知らせいたします。

平成29年度県南地区協議会全体会について

場所：ビックアイ7階 第一会議室

日時：平成29年4月18日(火)

教育講演：18：30～

教育講演：「福島県立医科大学における新医療系学部設置構想」

講師：福島県立医科大学新医療系学部設置準備室

教授 久保均先生

全体会：19：00～

新しい県南地区の体制を決め、展開する事業を決める重要な機会ですので、県南地区の会員諸兄、ご出席をお願いいたします。(白石)

浜通地区

「相双地区 画像勉強会」開催

平成28年度相双地区画像勉強会が2月22日に開催されました。南相馬市原町区のホテルを会場にして30名近くの技師会会員の皆様が集まり、富士フィルムメディカルの大島裕二様を講師に迎え、「低線量撮影を追求したDRシステムと最新画像処理技術」という題目でお話をいただきました。相双地区は富士フィルムメディカルのCR、DRシステムを導入している施設が多いので、最新のハードおよびソフトウェアの話はとても参考になりました。その後、同

じホテル内で懇親会を行いました。相双地区はまだ震災前の状況には戻れず、技師同士の集まる機会も



少ないので有意義な懇親会になったと思います。(大井)

「第24回いわき地区画像研究会」開催

平成29年1月20日グランパークホテル パネックスいわきにて、「RSNAにおけるMRI装置最新技術のご紹介」と題し、GEヘルスケア・ジャパン株式会社 丸山功男先生から2016年に開催されたRSNAに展示された新製品3T装置「SIGNA Architect」や2014年に発表された1回の撮像で、T1強調、T2強調などの6つのコントラスト画像を得られる技術「MAGIE」などの紹介して頂きました。MRIの技術はここまでできたのかと驚かされました。講演後は新年会がおこなわれ親睦を深め楽しい時間を過ごしました。(菅原)

編集後記

あっという間に2年が過ぎようとしています。皆様のご協力のおかげで、無事に広報編集を務めることができました。支えてくださった皆様、に感謝いたします。2年間ありがとうございました。(菅原)

会 告

第72回(平成29年度)公益社団法人
福島県診療放射線技師会定時総会

日時：平成29年5月27日(土) 13時30分より
会場：福島県立医科大学 第2臨床講義室
〒960-1295 福島市光ヶ丘1 TEL024-547-1111

～プログラム～

13:30 受付
14:00 開会
14:10 学術委員会分科会及び部会活動報告
15:15 開場 一般公開
15:30 一般公開講演「現代の酒造り」
東日本酒造協同組合理事(役員杜氏)
殿川 慶一 様
過去20年間で日本最多の17回金賞受賞という凄腕の持ち主に現在の酒造りについてお話いただきます。
16:30 終了
16:45 総会

告 示

公益社団法人福島県診療放射線技師会定款第23条及び役員選出規程に基づき、平成29,30年度役員の立候補受付及び選挙を下記により行う。

記

1. 役員の定数
理事 14名以上17名以内
(会長・副会長候補者を含む)
監事 2名(内 1名は会員以外)
2. 立候補、推薦候補届出受付開始日及び締切日
平成29年4月1日より
平成29年5月7日正午まで必着
3. 届出の方法
・立候補届を選挙管理委員会に提出する。
・役員立候補届出用紙は、定款・諸規程集の役員選出規程の末尾と当会ホームページの定款・規程集のページにありますので複写してお使いください。
4. 届出先
〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7
公益社団法人福島県診療放射線技師会
選挙管理委員会 宛
5. 投票日
平成29年5月27日
第72回(平成29年度)定時総会

以上告示します。

平成29年3月1日
公益社団法人福島県診療放射線技師会
選挙管理委員会委員長 亀山 欣之

【編集広報委員会】

委員長 平井和子 北福島医療センター(会報担当)
副委員長 白石嘉博 星総合病院(ニュース担当)
委員
県北 阿部雅浩 福島県保健衛生協会(会報担当)
安藤智則 大原総合病院(ニュース担当)
県南 元木弘之 太田西ノ内病院(会報担当)
國分美加 総合南東北病院(ニュース担当)
会津 浅川和広 南会津病院(ニュース担当)
浜通り 菅原正志 福島労災病院(ニュース担当)
大井和広 小野田病院(ニュース担当)